

入曽地区の小学校の統廃合を進めるプロセスで生じた課題とその対応

課 題	対 応 内 容
<p>① 統合の時期 入間小学校の廃止の時期（平成23年3月）については、駅前開発の事業計画の時期も考慮したうえで決められた経緯があり、開発の見通しが立たないのであれば、統廃合は進めるべきではないとの意見が出された。</p>	<p>教育委員会が学校の統廃合を進める第一義的な目的は、あくまでも学校規模の適正化であることを説明するとともに、入間小が学校施設の老朽化や耐震性が十分でない状況にあったことも踏まえ、当初の予定どおり平成23年4月に統合する方向で、関係者に理解を求めた。</p>
<p>② 経済的な負担 学校が変わることで、名札や学年帽などを新たに買いそろえる必要があるため、保護者に経済的な負担が生じる。</p>	<p>入間野小学校及び南小学校の名札、学年帽及び水泳帽については、教育委員会で予算化し、統廃合で学校を移ることとなった入間小学校の全ての児童に現物支給した。体操着と上履きについては、買い替えを要する時期まで入間小指定のものを統合校でも継続して使用できることとした（買い替えの際は自己負担）。</p>
<p>③ 地元住民の理解 地域の拠点である学校がなくなることへの抵抗感。</p>	<p>将来の入曽駅東口地区の発展のため、入間小学校の跡地を活用したうえでの新たなまちづくりを目指している。</p>
<p>④ 通学の安全確保 入間野小学校通学区域の入曽交差点及び旧西武シート前交差点並びに南小学校通学区域の2か所の踏切について、特に危険が指摘された。</p>	<p>入曽交差点及び旧西武シート前交差点並びに2か所の踏切については、人的配置（安全誘導員）を行うことにより安全の確保を図った。さらに、その他危険が指摘された箇所についても、路面標示等ハード面の整備を実施した。</p>
<p>⑤ 施設整備 統合校に関しては、入間小学校よりも充実した教育環境の整備が期待された。</p>	<p>入間野小学校及び南小学校については、統合するまでに耐震補強と冷暖房の工事を完了させるとともに、照明の取換やプール改修、インターフォンの設置など、教育環境のさらなる充実を図った。</p>
<p>⑥ 統合校の名称 入間小学校の廃校に伴い、統合先の入間野小学校及び南小学校の名称をそのまま継続させるか、それとも新たな名称を制定するか。</p>	<p>3校の保護者や入間小歴代PTA会長、自治会長等にアンケートを実施するなど、地元関係者の意向を確認。それらの結果を踏まえ、入間野小学校と南小学校の名称はそのまま継続することとなった。</p>
<p>⑦ 不安軽減 環境が変わることにより、子どもの心理面に及ぼす影響が懸念された。</p>	<p>統合後の学校生活に対する不安感を解消し、統合当初から学校運営を円滑に行うため、3校合同津南町農業体験宿泊学習や合同遠足などの事前交流行事を積極的に取り入れた。さらに、きめ細かな指導体制を整えるため、市採用の臨時教員を入間野小と南小の各校にそれぞれ3名増員した。</p>
<p>⑧ 廃校となる学校への配慮 長きにわたる歴史と伝統を誇る入間小学校の思い出を、何らかの形で残してほしいとの要望が出された。</p>	<p>入間小学校のシンボルであるケヤキの木は残すこととした。さらに、ケヤキの木の近くに既存の百周年記念碑を移設するとともに、閉校記念碑の設置も併せて計画している。また、教室数に余裕のある南小学校内に入間小メモリアルルームを設け、入間小の思い出の品々を陳列した。</p>